

腎・膠原病学

【単位数：2単位，授業26コマ，予備4コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

石本卓嗣 教授（腎臓・リウマチ膠原病内科）

2 教育目標

（１）ねらい（Ⅲ-3-a, Ⅲ-4-a, Ⅲ-5-a）

- ① 腎臓・リウマチ・膠原病疾患の病態と症候を説明でき、その鑑別と診断を計画できる。
- ② 腎臓の構造と機能並びにその病態を把握し、腎疾患の病態，診断，並びに治療の概略を理解する。また，リウマチ性疾患・膠原病の病態を把握し，主要疾患の症候，診断，治療について臨床例に即して考察・鑑別する基礎的能力を修得する。

（２）学修目標

- ① 腎臓の構造と機能を関連付けて説明することができる。
- ② 腎機能に関して，クリアランス，糸球体濾過量，血清クレアチニン濃度について説明できる。
- ③ 急性・慢性腎不全の原因，症候，診断と治療を，それぞれ説明できる。
- ④ 末期腎不全の治療（血液透析，腹膜透析，腎移植）を説明できる。
- ⑤ 水電解質・酸塩基平衡の調節機構を説明できる。
- ⑥ アシドーシス・アルカローシスの病態生理と診断や，各電解質異常について説明できる。
- ⑦ 急性・慢性糸球体腎炎の原因，症候，診断と治療を，それぞれ説明できる。
- ⑧ ネフローゼ症候群の分類，症候，診断と治療を，それぞれ説明できる。
- ⑨ 各腎疾患の症候，診断と治療を説明できる。
- ⑩ 自己免疫と炎症，自己抗体について説明できる。
- ⑪ 関節炎をきたす疾患を鑑別できる。
- ⑫ 副腎皮質ステロイド，非ステロイド性消炎鎮痛剤，免疫抑制剤，疾患修飾性抗リウマチ薬，生物学的製剤の臨床効果や副作用について，それぞれ説明できる。
- ⑬ 各リウマチ性疾患や膠原病の症候，診断と治療について，それぞれ説明できる。

3 成績の判定・評価

（１）総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	80%	多肢選択問題を原則とする。一部記述式問題を含む場合がある。
レポート	○	20%	アクティブ・ラーニングの内容についてまとめたレポートを提出する。
態度	○	—	受講態度が不良の場合は10点を限度に減点をする。

出席： 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

Team-based learning (TBL): TBLの進め方，チーム分け等は講義期間開始後に説明する。

（２）合格基準

評価対象の合計が60%以上で合格とする。

（３）再試験・再評価の方法

定期試験に準ずる再試験を行う。評価対象の合計が60%以上を合格とする。

(4) 課題（試験やレポート）へのフィードバック

レポートについて特に点数の悪かったものに対しては、解説をしてフィードバックを行う。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症		MEDIC MEDIA	膠原病領域の主要疾患の基本的内容が網羅されている。
病気がみえる vol.8 腎・泌尿器		MEDIC MEDIA	腎臓の構造や機能，腎疾患の病態や治療が網羅されている。
レジュメ配付			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
リウマチ病学テキスト	日本リウマチ財団 日本リウマチ学会	診断と治療社	日本リウマチ学会教育委員会の標準的教科書で要点が簡潔に網羅されている。

6 準備学習（予習・復習）

講義に臨む前に，授業計画の項目について教科書にて簡単な知識を得ておくこと（1コマあたり0.5時間）。

講義後は，教科書や配付資料等で講義内容をしっかり復習して知識を確実なものにしたうえで，以降の講義や小テスト，定期試験へ臨むこと（1コマあたり約1時間）。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが，講義中に一部小グループ討論や講師との質疑応答や，アクティブ・ラーニングを用いた授業も実施する。

(2) 講義の内容

腎臓領域とリウマチ膠原病領域を俯瞰的に捉え，二者の関係性や他臓器との関連について把握し，各論としては腎臓の構造や機能，各腎疾患の病態，リウマチ性疾患や膠原病の主要疾患の病態等を，臨床的な視点も交えて理解を深めていくことを目的とする。